

## 八事商店街振興組合(名古屋市昭和区) 【代表者:理事長 守田将美】

### キャッチフレーズ

森と八つの坂のまち

### 活性化モデル商店街としてのモデル性

商店街はじめ地域の構成員のコラボレーションによりまちづくりを進め、地域の隠れた魅力の種を発掘し、みんなで育てあげ、誰もが訪れたいくなるまちを目指す

### 商店街の将来ビジョン

八事地区は地下鉄鶴舞線と名城線(環状線)が交差する結節点であり、また、主要幹線道路も交差する交通の要所となっている。その一方、名古屋の山の手として丘陵地帯に広がるハイセンスな文教地区でもあり、また歴史ある興正寺が存在する。このように多様な顧客を集客できる立地環境にあり、拠点商業地として広域性を有する商店街として発展していたが、長期的な地下鉄工事により商業的にも影響を受けるとともに、地下鉄名城線の開業により人の流れも変わり、来街者が減るといった悪循環に陥っている。

こうした現状を踏まえ、商店街内の活動にとどまらず、地域の団体等と連携を図り、効果的な情報発信を行うことにより、魅力あふれた個性的な八事を実現していくための事業を展開していく。

#### 1 コラボレーションイベントの開催によるまちのイメージづくり

地域内の興正寺公園は、都市においては貴重な自然植生をもつ公園であり、「八事の森」として親しまれ、市民団体「八事里山づくりの会」や学生が里山整備活動等に活発に取り組んでいる。こうした団体等と連携してイベントを継続開催することで、「自然あるまち」のイメージの定着を図る。

#### 2 商店街プロデュースによる地域ブランド商品の開発・販売

商店街が中心となり、地域住民・学生等と一緒に商品を企画開発し、その商品を商店街が販売して地域の魅力向上を図る。すでに、あいちの伝統野菜「八事五寸にんじん」を使った商品開発に取り組んでおり、さらに、地域の隠れた特産品を発掘し商品化を進めていく。

### 具体的に取組む事業内容

#### コラボレーションイベントの開催(20年度～22年度)

地域の各団体が協力して、地域資源である「八事の森」の自然を生かしたイベントを開催し、地域内外に向けてまちの魅力をPRする。

#### ブランド化事業(20年度～22年度)

地域の人とのコラボレーションにより、地域の特性を生かした地域ブランド商品を継続して開発・販売し、広くPRすることで、まち全体のイメージの向上を図る。

#### 情報発信ツールの活用

手軽に情報発信できる携帯電話を活用したシステム等を利用して、まちや商店街の情報(個店の情報、イベント情報、地域ブランド商品情報など)を効率的に発信する。